

教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒
明るく思いやりのある生徒
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第 20 号

平成30年12月21日発行

須賀川市立第二中学校

☎75-2910

発行責任者：校長 高崎則行

日本は「言霊信仰」の国 よい言葉はよいことを引き寄せる

いよいよ平成30年が終わろうとしています。来る年は、新しい元号が決まるまで、「平成31年」という呼び方よりも「2019年」という呼び方が多くなるかも知れません。元号が新しくなる節目の年をこれまで以上に清新な気分で過ごすことができたらいいですね。

本日、第2学期終業式では、次のようなお話をしました。

日本では、昔の人たちは、私たちの話す言葉、この言葉自体に魂が宿っていると信じていました。これを「言霊（ことだま）信仰」と言います。

言葉には魂が宿っているので、その力が働いて、よい意味の言葉を発すればよいことが起こり、悪い意味の言葉を発すれば悪いことが起こるといふふうに信じていたわけです。

正式な書きぞめは、正月二日に恵方※に向かっておめでたい言葉を書く伝統行事です。めでたい言葉で幸福を呼び寄せよう

というのです。また、節分の日に豆をまきながら「鬼は外、福は内」と叫ぶのも同じです。さらに、「明日天気になーれ」と願をかけるのも、元をただせば言霊信仰の表れです。

さて、言葉に魂が宿っているかどうかは別にして、面白いことに内容によっては、本当にそういう関係があることがわかってきました。

「わたしは、おっちょこちょいだ」という人と、「わたしは決断が素早い」という人とでは、同じ性格でも、後者の方が長所となって発揮されるようです。「もう、だめだ。」と口にする人よりも、「ここが頑張りどころだ。」と自分に言い聞かせる人の方が事実としていい結果が出ているということです。これがスポーツの面で応用されて、一流選手はメンタルトレーニングに取り入れています。また、最近、欧米で評判になっている「引き寄せの法則」という成功の法則は、こういう考え方に非常に近いものです。興味のある人は調べてみるとよいでしょう。

ところで、悪い意味の言葉はどうでしょうか。人を傷つけ、死に追い詰めることもあることを皆さんは知っていますね。相手に聞こえないように言っても、目があったときに伝わるものです。しかし、一番近くではっきり聞き取っているのは、言っているその人の耳なんです。自分の心の深い部分に悪い心と呼び寄せるといふ結果になったりしないでしょうか。

心の中に思い浮かべるときも、相手がいて発するときも、「言霊」という考え方を意識して生活すると、新しい年はもっと「福」を引き寄せられるでしょう。自分の言葉を大切にして、自分の可能性を開いていきましょう。

※ 恵方…その年の干支によりよいとされる方角。来年の恵方は東北東です。

古今和歌集の仮名序の冒頭にこうあります。

「やまと歌は、人の心を種として よろづの言の葉とぞなれりける。世の中にある人 事業しげきものなれば 心に思ふことを見るもの聞くものにつきて 言ひいだせるなり。花に鳴くうぐいす 水に住むかわづの声を聞けば 生きとし生けるもの いづれか歌をよまざりける。力をも入れずして天地を動かし 目に見えぬ鬼神をもあはれと思はせ 男女の仲をもやはらげ 猛きもののふの心をもなぐさむるは歌なり。」

多くの皆さんは、高校でこの部分を学習した時「言霊信仰」について習ったのではないのでしょうか。



い
の
ち
輝
く
魔
法
の
こ
と
は
あ
り
か
と
う
言
霊

県庁で全国大会金賞を報告 知事が関係者に「おめでとう」

12月18日(火)、県庁に行って内堀雅雄知事に面会し、合唱部の部長 鴻野 歩さんと顧問 上澤史子教諭とともに合唱部の全国大会金賞受賞の報告をしてきました。

須賀川二中合唱部が、過去3年間東北大会で金賞を受賞しながらも全国大会出場の権利を得られなかったことを知って、内堀知事がこうおっしゃってくださいました。

「知事が『よかったね。おめでとう。』と言っていただくと皆さんに伝えてください。」

合唱部は、卒業した先輩の果たせなかった思い、部員の研鑽ぶりを我が事のように見守ってくれた家族、他の生徒や教職員、地域の皆さんの思いを抱えて全国大会出場にこぎ着け、そして金賞を獲得しました。知事は、その大勢の皆さんに『おめでとう』と言ってくださったのです。

私が、11月14日(水)の全国大会出場記念演奏会で須賀川市文化センターにご来場いただいた約900名の皆さんに「おめでとうございます。」と申し上げたのも理由は同じです。知事の「おめでとう」を今度は私がありがたく受け止め、この紙面で皆さんにお伝えします。



郡山五中、郡山二中、福島一中とともに

なお、同じ日に男子ソフトテニス部が、森合義衛教育長に東北大会出場の報告を行いました。

福祉部のボランティア行事 愛寿園でハンドベル演奏



恒例になりました、生徒会奉仕部による吉美根の特別養護老人ホーム「愛寿園」訪問を12月14日(金)に実施しました。

上の写真は、ハンドベルでクリスマスソングを披露している様子です。また、奉仕部全員で作ったクリスマスカード——二つ折り、開くと絵が飛び出して立体になる——を入所者全員にプレゼントしました。

合唱部から社福協議会へ寄付

知事表敬訪問を行った、同じ12月18日(火)、須賀川市社会福祉協議会に寄付金を贈呈しました。

これには、合唱部の全国大会出場記念演奏会にご来場いただいた皆さんからご協力いただいた募金の一部を使わせていただきました。言ってみれば、市民の皆さんによる善意の浄財です。ここに記して御礼とさせていただきます。



ことばの力⑥ 志ヲ得ザレバ再ビ此地ヲ踏マズ

福島県の偉人 野口英世が家を出るときに柱に彫りつけたという言葉です。

「志(こころざし)ヲ得ザレバ再ビ此地(このち)ヲ踏マズ」

医師になるという志が遂げられないときは二度とここには戻るまい、という意味です。おそらく猪苗代町の野口英世記念館の生家には、今も残っているだろうと思います。

12月に入ってから、3年生は受験のための面接練習を行っています。そのとき私は、「あなたの『座右の銘』は何ですか？」と質問しています。「人事を尽くして天命を待つ」「練習は嘘をつかない」など、その言葉を受けて、どのような心がけで生活しているかをしっかり答えることができる生徒が増えています。

先人の言葉や格言、故事、ことわざなどから、自分の生活信条として、緩みがちになる自分を引き締めたり、現状に妥協しやすい自分に鞭を入れたりなど、自分の生き方を支える言葉を持ってほしいと思うのです。

さて、保護者、地域の皆様は、どのような「座右の銘」をお持ちでしょうか。



この学校だよりは、本校HPからもご覧いただけます。